

<p>歴史・地理</p> <p>keyword</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 高等商業学校 ■ 外国語教育 ■ 教養 ■ 歴史資料 ■ アーカイブ 	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 高等商業学校における教育活動の歴史研究 □ 歴史資料の保存・公開・活用に関する研究
	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p> <p>近代日本に誕生した教育・学校制度において、資本主義発展のために有意なビジネスマンを輩出したとされる高等商業学校は、企業や官公庁などで働く上で有用な知識・技術を徹底的にたたき込んだと考えられがちです。しかし、その教育は会計学や経営学、あるいは、海外との通商活動に必要な外国語などいわゆる「実学」のみではありませんでした。哲学や倫理学、文学などの多様な「教養」が、それこそビジネスマンに必須の要素として身につけさせるように努められたのです。こうした事実を掘り起こすことを可能にするのが、歴史資料の保存・公開というアーカイブという活動です。アーカイブは、ある組織や人の集団の過去を探り知るためにのみ必要なのではなく、その集団の現在、そして未来の活動を生み出す契機を与えるために活用されてはじめて意味をもつのです。</p>
<p>坂野 鉄也 Tetsuya Banno</p> <p>経済学部 准教授</p>	<p>【歴史資料の保存と公開、そして活用】</p> <p>歴史資料を保存し、公開するというアーカイブという行為は、組織、集団における三つの「ア」を導きます。</p> <p>まず一つは、「アイデンティティ」(identity)です。歴史資料を保存・公開するアーカイブは、その組織や集団の来し方を探ることに貢献します。ある組織の設立、ある集団の成立のはじまりや過去を知ることには、その成員に起源という核や歴史的な同一性を与えることとなります。</p> <p>次の「ア」は「アカウンタビリティ」(accountability)の「ア」です。ある組織や集団の活動の記録である歴史資料は、自らの活動がいかなる根拠をもっておこなわれたのか、いかなる経過であったのかといった情報です。したがって、自らの活動について、根拠を持って語る、つまり説明することができるのです。</p> <p>最後の「ア」は「アクティベーション」(activation)の「ア」です。ある組織や集団の過去が保存され、いつでもアクセス可能な状態、つまり整理された状態に置かれているということは、たんに「過去」を振り返るためだけでなく、その組織や集団が新たな活動を起こす上で、きっかけとなりうるようなヒントや刺激を与えてくれるのです。</p>
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●略歴 ・1992年 名古屋大学文学部史学科 西洋史学専攻 卒業 ・1995年 名古屋大学大学院文学研究科 史学地理学専攻西洋史専門博士前期課程 修了 修士(文学) ・1997年 東京大学大学院総合文化研究科 地域文化研究専攻修士課程 修了 修士(学術) ・2002年 東京大学大学院総合文化研究科 地域文化研究専攻博士課程 単位取得退学 ・2008年 滋賀大学経済学部 講師 ・2010年 滋賀大学経済学部 准教授 <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●所属学会 ・日本ラテンアメリカ学会 ・史学会 ・歴史学研究会 <p>【共同研究タイトル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「20世紀前期の帝国日本における実学実践と教養主義をめぐる文化研究」 ・「高等商業学校における語学教育と調査実習についての実証研究」 ・「歴史資料の保存と公開と活用の実践論」 ・「20世紀前期の帝国日本における教養の知と技をめぐる実学リテラシー」 	<p>【高等商業学校における教育活動】</p> <p>わたしは、こうしたアーカイブという行為を高等商業学校という場を舞台としておこなっています。歴史資料の公開という点ではとくに、滋賀大学経済学部の前身である彦根高等商業学校の教育、とりわけ外国語教育や国際理解教育を対象としています。その成果は、滋賀大学経済学部附属史料館における企画展『彦根高商の日々』(2013年)や滋賀大学総合研究棟内のしがたい展示コーナーにおける特別展『彦根高等商業学校の英語科教科書』(2015年)といった展示です。</p> <p>また、高等商業学校を前身とする全国の大学においてアーカイブされた歴史資料をもちい、高等商業学校における教育活動に関する歴史研究もおこなっています。高等商業学校は近代日本の高等教育機関の一つですが、帝国大学・旧制高等学校や私立大学とは異なり、高等工業学校や高等農林学校などと同様に高度な「実業」を教える学校として位置づけられていました。そのため、企業の幹部として経営の一端を担うのに必要な専門的な知識のみが教えられたと考えられがちです。しかし、高等商業学校における高等「実業」教育は専門知にとどまらない教養知をも与えました。専門知とともに教養知を備えたものが、西欧諸国のビジネスマンに伍する「真のビジネスマン」と考えられていたのかもしれませんが。</p>